

万博後の大阪の将来像について（たたき台）

第 5 回有識者WG資料

令和元年12月 4 日

万博後の大阪の将来像について（意義等）

- 大阪には、これまでの歴史の中で培われてきた、「内外の人を惹きつける魅力」、「新たな価値を創造する力」があり、さらには、「進取の気質」や「社会貢献の精神」をもって、世界に開かれた都市として、世界とともに発展を遂げてきた。
- こうした大阪において、**1970年、アジア初となる国際博覧会が開催された**。70年万博では、「人類の進歩と調和」をテーマに、世界各国から英知を結集し、諸国民間の相互理解を深めることにより、世界の平和と人類の福祉の増進に寄与することを目的に開催された。
- 70年万博は、**大阪の都市インフラの向上のほか、新たな技術やサービスを生み出す契機ともなり、また、「世界の中の日本・大阪」という認識を呼び覚ます機会ともなった**。日本の社会に大きなインパクトを与えた大阪万博は、当時としては、史上最高の6422万人の入場者を集め、大成功のもとに幕を閉じた。
- しかしながら、**万博開催の効果をその後の大阪の成長に十分結び付けることができず、大阪はその頃をピークに、東京への一極集中等の影響もあり、長期的な地位の低下を辿ることになる**。
- 現在の大阪は、**ライフサイエンス産業や新エネルギー産業など大阪の強みとなる産業が成長するとともに、バランスの取れた産業構造を土台に、安定した経済成長を支えており、また、近年の輸出額の増加や、インバウンドの増勢により、大阪経済は回復傾向にある**。さらに、歴史や食文化等多彩の魅力をもつ大阪のまちは、**多くの観光客に溢れ、今また、万博開催都市として注目が集まってきている**。
- こうした中、半世紀ぶりに大阪で2度目となる万博が開催される。2025年大阪・関西万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」のテーマのもと、**世界が直面する課題に対して、世界中の人々が知恵を出し、ベクトルを一つにしてSDGsの達成に向けた取り組みが進められる**。また、社会課題の解決に資するSociety5.0の実現に向け、**新たな技術やサービスの実証など様々なチャレンジが行われる**。
- この万博開催を一過性のものとせず、大阪が万博後も世界の中で輝き続けるためには、**安全・安心のもと、大阪の歴史的な厚みと現在の大阪のポテンシャルを土台に、万博のインパクトを最大限活用し、大阪の「持続的な成長」と府民の「幸せな暮らし」を確立するとともに、万博開催都市として、SDGsの達成に向け、「未来を世界とともにつくっていく」ことが必要である**。
- こうした取組を進めることにより、**次代を担う子どもたちが、これからの未来に希望を持つことができ、すべての人が自らの可能性を十分に発揮できる、ワクワクするような社会を未来に向けて大阪から構築していかなければならない**。

万博後の大阪の将来像について（イメージ）

世界一ワクワクする都市（案）

Osaka
-Amusing Creations-

※その他の案
・世界一ワンバクな都市
・パーティーシティ
・Wonder-Full Osaka
・シューケースシティ・大阪 等

多様なチャレンジによる成長
Creative Innovation

いのち輝く幸せな暮らし
Human Well-being

誰もが可能性を発揮し
共に創りあげる
Inclusive Co-Creation
Lab, Osaka

世界をともにつくる
SDGs Advanced Osaka

※その他の案
・共創による成長
・成長を加速
・途切れることなく成長
・新たなものを生み出し成長
・チャレンジと成長 等

※その他の案
・豊かな暮らし
・健康な生活
・子どもが笑う
・いきいきと活躍
・「ikigai(生きがい)」 等

※その他の案
・SDGs 先進都市、子どもたちの未来に貢献、世界の課題解決に貢献、
人類の未来に貢献、地球の未来に貢献 等

都市の発展を支えるサイバー・フィジカルの両面における都市基盤

AIやIoT、ビッグデータなどの先端技術の活用（Society5.0の実現）
インフラ等の都市基盤の充実

万博後の大阪の将来像について（全体の考え方）

【基本的な考え方】

- 将来の大阪を創り上げていくうえで、基本となる考え方が、「**人が中心**」であること。
人を中心に考え、**すべての人たちが可能性を最大限に発揮し、将来の大阪を、共に創り上げていくという考えを基本とする（Inclusive Co-Creation Lab, Osaka）。**

【3つの取組の方向性】

- 「人を中心」とする基本的な考え方のもと、以下の**3つの方向性により取組を推進**。
 - ①**多様なチャレンジによる成長（Creative Innovation）**
→都市の寛容性を高め、多様な人材を呼び込むとともに、様々なことにチャレンジできる環境を整え、イノベーションの促進を図るなど、持続的な成長に向けた取組を推進。
 - ②**いのち輝く幸せな暮らし（Human Well-being）**
→すべての人が生涯にわたって、肉体的な健康だけでなく、精神的、社会的にも健康でいきいきと活躍できる社会の実現に向けた取組を推進。
 - ③**世界をともにつくる（SDGs Advanced Osaka）**
→SDGsの達成に向けた取組や、これからの世界の未来に貢献する取組を推進

【取組を支える土台】

- こうした取組を進めていくためには、これを支える**サイバー・フィジカルの両面からの都市基盤の整備**を図ることが重要。
- 災害対応力の強化や交通インフラの充実など都市基盤の充実**にさらに取組を進めるとともに、**AIやIoT、ビッグデータなどの先端技術の活用により、サイバー空間における都市基盤の整備**を推進。

こうした考え方のもと、万博後の大阪の将来に向けて取組を進めていくことで、「**世界一ワクワクする都市（Osaka -Amusing Creations-）**」の実現をめざす。

万博後の大阪の将来像について（キーワードの考え方）

世界一ワクワクする都市（Osaka -Amusing Creations-）とは

- 「Amusing」は、面白い、楽しいという意味を指すが、この言葉から連想される、予測不可能性、前向きさなどの意味を持たせ、さらには、こうしたまちを共創（Creations）していくという意味を込め、「世界一ワクワクする都市・Amusing Creations」とした。
- このような意味は、大阪の歴史に培われた「人を惹きつける魅力」や「おもてなし精神」、「笑いの文化」などとも合致し、「まちがにぎやかでおもしろい」といった、現在の大阪に対するイメージとも合致する。
- また、2025年大阪・関西万博では、SDGsをはじめ世界が直面する課題を解決し、明るい希望が持て、ワクワクするような未来社会を描くとともに、こうした社会を実現していくために、世界中の人々が知恵を出し合い、これからの世界を共創していく場となる。
- 大阪らしさや、二度の万博を開催する都市のイメージ、さらには、子どもたちをはじめ、すべての府民に、わかりやすく・明るい将来を伝えていくという観点から、「世界一ワクワクする都市・Amusing Creations」は相応しいキャッチフレーズである。
- 2025年のその先を見据え、大阪を、万博後においても引き続き、内外の人々を魅了し、惹きつける「世界一ワクワクする都市・Amusing Creations」としていくため、これまでの歴史に培われた土壌や万博のインパクトを最大限に活用し、安全・安心のもと「多様なチャレンジによる成長（Creative Innovation）」
「いのち輝く幸せな暮らし（Human Well-being）」
「世界をともにつくる（SDGs Advanced Osaka）」
といった三つの方向性により取組を一体的に推進することにより、すべての人たちが自らの可能性を最大限に発揮し、共に大阪を創り上げていく（Inclusive Co-Creation Lab, Osaka）。

万博後の大阪の将来像について（キーワードの考え方）

「世界一ワクワクする都市」を、「大阪らしく」表現する場合の案

世界一オモロイ都市（Osaka -Amusing Creations-）

- 「面白い」を、大阪弁で「オモロイ」という。
- 「面白い」には、「興味をそそられて、心が引かれるさま」、「心が晴ればれするさま」、「快く楽しい」といった意味のほか、「人として共鳴したり、心が震える」といった意味も内包されるものである。
- 「オモロイ」という表現は、「ワクワク」と同様に、大阪の歴史に培われた「人を惹きつける魅力」や「おもてなし精神」、「笑いの文化」などとも合致し、「まちがにぎやかでおもしろい」といった、現在の大阪に対するイメージとも合致する。
- また、世界の人たちとの共創のもと、多くの人たちに心震えるような感動を与える場となる万博を開催する都市として、「世界一オモロイ都市」は、「世界一ワクワクする都市」と同様に、大阪の将来像を表すのに適した表現であると考えている。

※参考:「おもしろい」の意味(大阪ブランド情報局HPより抜粋)

- 「おもしろい」という大阪弁、ただ単に「おもしろい」と同じ意味の言葉かという点、そうではない。非常に味のある、身体的な言葉なのだ。臨床心理学者の河合隼雄さんの著書「こころの声を聴く」(新潮文庫)に、こんな記述があるので、ご紹介したい。
- 『オモロイはおもしろいとは少しニュアンスの差があり、そこにも大切なポイントがあるように思う。オモロイという形容詞を使うとき、それは「面白い」とか「ためになる」などという判断以前、どこか腹にこたえるものがあつた、何か未知のインパクトがあつたことを意味し、それは知的判断としてよりは、人間全体としての反応の方に重点をおいた言葉である。「オモロイナ、よしやろう!」というように、何かこちらの身体まで動き出しそうな--と言って何をやるのか定かではないが--動きが生じてくるのである。』
- 大阪人が本当の意味で「それ、おもしろいやん!」と膝を打つとき、それは、表層的な部分でなく、ヒューマンな部分で共鳴したり、ココロが震えていることが多い。コテコテで泥臭いというのは実は裏を返せば、そういう“オモロガリ精神”の発露でもあるのだ。

万博後の大阪の将来像について（施策の方向性等）

※将来像で示した3つの方向性のもと、これまでのWGにおいて委員から意見のあった施策等について整理（主なもの）

多様なチャレンジによる成長（Creative Innovation）

- 都市の寛容性を高め、多様な人材を呼び込むとともに、様々なことにチャレンジできる環境を整え、イノベーションの促進を図るなど、持続的な成長に向けた取組を推進。

【WG委員の主な意見】

- ・ライフサイエンス分野におけるイノベーションの促進 ・次世代型ヘルスケア
- ・テクノロジーを活用した教育 ・都心への大学・研究機関等の立地
- ・データ利活用の促進（規制緩和、イノベーションの促進、デジタル経済圏の形成等）
- ・スタートアップ支援の充実 ・次世代モビリティ など

いのち輝く幸せな暮らし（Human Well-being）

- すべての人が生涯にわたって、肉体的な健康だけでなく、精神的、社会的にも健康でいきいきと活躍できる社会の実現に向けた取組を推進。

【WG委員の主な意見】

- ・10歳若返りに向けた取組 ・ウォークアブルシティ ・住みやすさ
- ・ハード・ソフトの両面におけるバリアフリー（飲食店、ホテル、テクノロジーの活用（GPSを活用した誘導等））
- ・団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けた課題解決の取組（テクノロジーを活用した医療・福祉施策）
- ・災害の教訓を活かす ・新技術を活かした防災・災害対策
- ・環境やウエルネスに配慮した高質な生活空間の提供 など

世界をともにつくる（SDGs Advanced Osaka）

- SDGsの達成に向けた取組や、これからの世界の未来に貢献する取組を推進

【WG委員の主な意見】

- ・SDGs関連ビジネス（SDGsビジネスを地場産業に）
- ・食文化の強みを活かした取組（子どもの貧困問題等）
- ・年齢、性別、国籍、障がいの有無にかかわらず誰もが輝けるインクルーシブな社会
- ・SDGsネクストに向けた施策の発案 など

AIやIoT、ビッグデータなどの先端技術の活用
インフラ等の都市基盤の充実

万博後の大阪の将来像について（施策の方向性等）

- 万博開催後の大阪の将来に向けた施策の方向性の検討に当たっては、**万博のインパクトを活用するという観点から、2025年大阪・関西万博における具体的な取組内容等を踏まえた検討が必要。**
- 今年7月には、経済産業省「大阪・関西万博具体化検討会万博計画具体化検討ワーキンググループ」において、「『**新しい時代の万博**』の具体化に向けて（報告書）」が取りまとめられ、**具体的な取組例が示されていることから、こうした点も踏まえ、施策の方向性等の検討することが必要。**

■ SDGs達成+ beyondに向けて



- ▼様々な価値観に基づく「いのち輝く」のあり方を示すとともに、それを実現、促進するための方法論（評価、測定のあり方など）を提示する。
- ▼大阪・関西の強みである、**ライフサイエンス分野の最先端の研究・技術（iPS、遠隔医療、遺伝子分析、医療ビッグデータ解析、予防医学等）が、どのように生活・まち・社会を変えるのか体験できる場を実現する。**



- ▼日本館を、国連と連携した「SDGs + beyond 館」とし、**Society5.0 のショーケースにする。**
- ▼テーマ館については、SDGsの各個別目標と連動したテーマを設定。企画段階から民間の参画を募ることで、**現実の課題解決に向けた取組との相乗効果を図る。**

Live Discussion



- ▼テーマに即した**国際会議や大小の議論の場**を会期中に設ける。
- ▼世界中から参加できる議論の場である**Online Platform**を通じて、多様な参加者の意見を継続的に吸い上げる。
- ▼議論の成果を2030年SDGs達成 + beyondに向けた宣言「**Expo2025 Osaka, KansaiAgenda（仮称）**」として取りまとめ、**世界に発信する。**

万博後の大阪の将来像について（施策の方向性等）

■「未来社会の実験場」にふさわしい会場計画

Super Smart Venue



- ▼AIなどの活用により、人の流れを制御することで、入場、会場内の待ち時間ゼロを実現する。キャッシュレス、生体認証システム、世界中の人と会話できる多言語システムを実装する。
- ▼地震、台風を意識し、防災・減災技術を駆使したレジリエントな会場を整備するとともに、そのノウハウを世界に発信する。
- ▼ロボットと人間が心を通わせ共存する社会を示す。
- ▼最先端技術を活用しながら、そこでしか体験できないリアルな楽しさ・価値を提供する。

Digital × Sustainability



- ▼会場内における再エネ100%、水素利用、CO2ゼロエミッションを実現する。
- ▼パビリオン自体、またその解体で発生する廃材の利活用を予め織り込んだ設計を行う。
- ▼会場が瀬戸内海を臨む立地であることを意識し、自然環境との調和に留意する。

Unique Experience Outside the Venue



- ▼主要駅－会場間の自動走行、空飛ぶクルマなどの次世代モビリティを実装する。
- ▼水都・大阪にふさわしい、会場⇔空港、会場⇔大阪・関西の水陸輸送を活用する。
- ▼会場と連動したイベントや街の装飾など、会場外も含めた一貫性のある体験をデザインする。

万博後の大阪の将来像について（施策の方向性等）

■ 日本の飛躍の契機に

Society 5.0



- ▼SDGs 達成のための解決策を提示できる、スタートアップをはじめとする民間企業、研究機関などによる最先端技術のショーケースにする。
- ▼医療産業都市である関西地域の大学など学術機関やけいはんな学研都市と連携し、その強みを生かした解決策を提示する。
- ▼民間企業や大学からの提案の公募やコンソーシアムの立ち上げ。
- ▼中小企業やベンチャー企業など多様な主体が新たなチャンスをつかみ、世界に飛躍するよう、参加、発信の機会を確保。

Inbound



- ▼関西をゲートウェイとして日本全国の観光地や食などの魅力を外国人に発信し訪問を促す機会（夢洲を起点とした、日本の文化・歴史の周遊パッケージ、瀬戸内海の船旅など）とするとともに、様々な交通事業者の運行情報を一元的に提供するMaaSを構築する。
- ▼大阪・関西地域の強みを生かした新たな魅力を創出、発信する（健康、ウェルネスを軸としたツーリズム、VRと伝統文化の融合による新たなコンテンツ創出など）。
- ▼多言語対応、ボランティア、民泊の活用及び宿泊施設の整備など、外国訪問客受入れ環境を整備する。

Associated Events



- ▼意欲ある自治体や団体などの万博に向けた自主的取組を、関連プロジェクトとして「認定」する。
- ▼関西地域の強みとなっているライフサイエンス分野などの大学及び研究機関と万博とをネットワーク化する。
- ▼1970年日本万国博覧会の会場跡地でのイベントと連携し、1970年と2025年の比較展示を行う。

万博後の大阪の将来像について（施策の方向性等）

■ 多様な参加者による共創プロセス

Co-creation



- ▼テーマ館の企画との連携など、**世界中の人々及び国々が参加・共創するプラットフォームとして、Online Platformを活用**する。
- ▼各参加国の考え方を尊重し、特に、開発途上国に対しては、きめ細かなサポートを実施し、共に創るプロセスを重視する。
- ▼大学や70年万博のレガシーである国立民族学博物館をはじめ学術機関や国際機関などが持つ国際ネットワークを活用する。

Diversity



- ▼未来社会を担う次世代の才能の飛躍の機会とすべく、**次世代を担う才能を積極的に発掘するとともに、挑戦する機会を確保**する。
- ▼文化、科学、芸術、建築など様々な分野で**世界的に活躍する優れた有識者とのネットワークを構築**する。

